



メール マガジン版 音楽の世界

第13号 日本音楽舞踊会議（CMDJ）2008年9月16日（火）発行
The CONFERENCE of MUSIC and DANCE, JAPAN
〒169-0075 新宿区高田馬場 4-1-6 寿美ビル305号 TEL&FAX 03-3369-7496
<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/> E-mail: onbukai@mua.biglobe.ne.jp

メールマガジン版『音楽の世界』第13号（喜歌劇コンサート 特集号について）
日本音楽舞踊会議 電子出版部長：中島洋一

5ヶ月振りに、メールマガジン版『音楽の世界』を発行いたします。
今回は9月21日（日）午後4時より、すみだトリフォニーホール（小）で開催される CMDJ2008年オペラコンサート『愛と夢の世界へのお誘い』にちなんで、オペラコンサート特集号といたします。

近年開催の日本音楽舞踊会議オペラコンサートとしては、2005年12月2日開催の『愛・憎しみ・血の惨劇！』、2007年9月14日開催の、喜歌劇コンサート『愛のたくらみ』がありますが、今回のオペラコンサートは、それに続く催となります。、そして、いままでで最も大がかりな催になると思います。

過去3回のオペラコンサート開催時にも、メルマガ特集号が発行されております。
なお、9月14日発行をめざしましたが、総練習への立ち会い、その他色々多忙だったため、発行が二日遅れてしまいました。読者の皆様にはお詫び申し上げます。

（メールマガジン版『音楽の世界』編集責任者 中島洋一）

メールの宛先：中島洋一 yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp

+ + *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +*

♣ メールマガジン版 『音楽の世界』第13号の内容 ♣

- | | | |
|----------------------------------|-------|-------|
| 1) CMDJ2008年 オペラコンサートについて | 中島 洋一 | P. 2 |
| 2) 当日のプログラムの概要 | 中島 洋一 | P. 3 |
| 3) 出演者のメッセージと略歴 | | P. 4 |
| 4) メルヘンヘンの世界とオペラ | 中島 洋一 | P. 9 |
| 5) 過去のオペラコンサートの記録 | | P. 13 |
| 6) 10月～12月の日本音楽舞踊会議と、会員個人の催物のご案内 | | P. 14 |
| 7) 編集後記 | | P. 17 |

CMDJ2008 年 オペラコンサートについて 中島 洋一

日本音楽舞踊会議では、2005年12月2日に、Opera Concert 『愛・憎しみ・血の惨劇!』、2007年9月14日に、喜歌劇コンサート『愛のたくらみ』を開催いたしました。今回も前回、前々回と同じく、すみだトリフォニー（小）ホールにて、オペラコンサートを開催することになりました。

前々回が、殺人が重要な要素になっているオペラ作品で構成したコンサート、今回は喜歌劇の代表作によるコンサートでしたが、今回は『愛と夢の世界へのお誘い』というサブ・タイトルのもと、愛を表現したオペラの代表的作品であるヴェルディの『椿姫』と、メルヘン・オペラの代表作である、フンパーディンクの『ヘンゼルとグレーテル』を公演いたします。『椿姫』（抜粋）は、ベテランの佐藤光政氏、それに若々しく将来性豊かな二人の歌手、テノールの加藤太朗氏とソプラノの佐野友美さんに出演してもらい、演奏会形式で演奏いたしますが、『ヘンゼルとグレーテル』は、大きな省略のない形で全曲を演奏いたします。

しかし、『ヘンゼルとグレーテル』はメルヘン・オペラの代表作であり、家族連れで楽しめる数少ないオペラ作品の一つです。従って子供達や、普段オペラに慣れ親しんでいない人達にも解りやすいように、日本語公演とすることにしました。しかし、歌のパートを日本語で歌った場合、大きな跳躍音程や、強いアクセントなど、原語のドイツ語なら自然に聴こえても、日本語に訳した歌詞で歌うと言葉が聞き取れないほど不自然になってしまう箇所があります。それは、ドイツ語と日本語のイントネーションの違いから来るもので避け難いところです。『ヘンゼルとグレーテル』の場合、アリアや重唱など、楽曲としてまとまった部分は比較的メロディックで平明に書かれており、日本語で歌ってもそれほど不自然には聴こえないのですが、対話の部分などに、日本語で歌うと特に不自然になってしまうところがあります。そこで、そういう部分はセリフで語らせることにして、新たに日本語の台本を書きました。『ヘンゼルとグレーテル』は、最初は家庭用音楽劇として作曲され、その後台本を手直しし、ジングシュピール（歌芝居）として書き直され、最終的には台詞のない、すべて歌唱による楽劇風「メルヘン・オペラ」として完成させています。ジングシュピール版『ヘンゼルとグレーテル』がどのようなものだったかは判りませんが、今回の日本語公演の形態をあえて称せば、日本語版ジングシュピールのようなものと思います。

また、序曲やパントマイムの音楽など、独立した管弦楽曲になっている部分は、今回は電子オーケストラに置き換えたので、耳が飽きたり、疲れたりすることがないように、時間を短縮してあります。

限られた予算の中で、メルヘン・オペラとしての夢を壊さないような舞台作りをしようと、演奏面だけでなく、舞台美術、衣裳などについても、スタッフ、キャスト共々、様々な努力と苦勞を重ねてまいりました。しかし、聴衆の皆様方に、喜びと感動を与えることが出来れば、それらの苦勞もすべて忘れ去ることが出来ます。どうか、本番の舞台に足を運び、音楽と舞台をお楽しみいただきたいと思います。

2008年9月15日記

《プログラム》

1) オペラアリアの楽しみ

プッチーニ 歌劇「ボエーム」より “ムゼッタのワルツ” 歌：山下 美樹(ソプラノ)
“私の名はミミ” 歌：武田 麻衣(ソプラノ)
ピアノ伴奏：亀井 奈緒美

2) ヴェルディ 『椿姫』 より

Verdi “LA TRAVIATA”

乾杯の歌(第1幕 第2景) 歌：佐野友美/加藤太郎、
ああそは彼の人か～花から花へ(第1幕 第5景) 歌：佐野友美
ひとりきりじゃ面白くない、今の毎日は(第2幕 第1景) 歌：加藤太郎
プロヴァンスの海と陸 歌：佐藤光政
パリを離れて 歌：佐野友美/加藤太郎

配役：ヴィオレッタ：佐野友美(Sop.)/アルフレード・ジェルモン：加藤太郎(Ten.)
ジョルジュ・ジェルモン：佐藤光政(Bar.)/ピアノ伴奏：亀井奈緒美

----- (休憩) -----

3) フンパーディンク 『ヘンゼルとグレーテル』 日本語公演

Humperdinck “H ÄNSEL UND GRETEL”

第1幕～第2幕

----- (休憩) -----

第3幕

配役：ヘンゼル(M.S.)：湯川亜也子/グレーテル(Sop.)：佐々木寿子
父親ペーター(Bar.)：佐藤光政/母親ゲルトルート(M.S.)：増田浩子
お菓子の魔女(M.S.)：花田愛
眠りの精(Sop.)：武田麻衣/露の精(Sop.)：山下美樹
お菓子の子ども達&天使達のパントマイム
児童合唱団 市川コーロ・バンビーニ/合唱指導&指揮：渡辺裕子
合唱出演者
赤木悠子、秋本伊織、秋本陽彩、東屋海来、石橋久瑠実
石橋果輪、磯貝智花、岩崎悠里、大橋奈莉、加藤未紬、
菊池綾花、菊池侑梨伽、熊谷友希、倉島夏未、坂本安里紗
坂本芹佳、坂本光衣菜、佐藤春菜、増永優実、松原杏莉、
服部泰河、服部響巳、渡辺せいら
リコーダー演奏：佐藤幸子/電子オーケストラサウンド制作：中島洋一
舞台美術制作 協力・指導：菅原順一

司会：佐藤光政/ピアノ：伴奏 亀井奈緒美/演出：島信子

制作：浦富美/舞台監督：橘川琢/企画・構成：中島 洋一

2008年9月21日(日) 16:00 開演 (15:30)開場

すみだトリフォニーホール 小ホール

主催：日本音楽舞踊会議/月刊『音楽の世界』

協力：日本音楽舞踊会議 声楽部会

入場料金：3000円/中学生以下1500円(全自由)

(本会会員、賛助会員は入場無料)

日本音楽舞踊会議 (The Conference of Music and Dance, Japan)

〒169-0075 新宿区高田馬場4-1-6 寿美ビル305号

Tel.&FAX: 03-3369-7496

ホームページ: <http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai>

電子メール: onbukai@mua.biglobe.ne.jp



《出演者のメッセージと略歴》

佐藤 光政（さとう みつまさ：バリトン&司会）



《メッセージ》

今回の“ヘングレ”と“椿姫”、慣れない役柄であります（父親！）何しろ共演の諸君は皆若手のバリバリ!! そんな彼等とどれ程闘えるか...、世代の違和感を憶えずに、どれ程歌えるか...、が、今回の催のチャレンジとなりそうではあります。

何はともあれ、会場の皆様と楽しいひと時を一緒に持てますように、精一杯歌わせていただきます。どうぞよろしく!!

《略歴》

1966年東京芸術大学音楽学部卒業。1973年第7回パリ国際音楽コンクール入賞。同年、第42回日本音楽コンクール声楽部門第1位入賞。1990年《春琴抄》でフィンランドのサヴォリンナ・オペラフェスティバルに参加。第18回ジロー・オペラ賞受賞。1994年に2枚組CD『佐藤光政 日本の抒情を歌う』を発売。2000年に、『日本の名歌を歌う』を発売。磯谷威、大槻秀元、柴田睦睦、河本喜介の諸氏に師事。二期会会員、東京室内歌劇場、日本音楽舞踊会議会員、PCM事務所所属。2005年から始まったCMDJオペラ公演において、ずっと司会役および重要な役を担当し、公演の中心的存在として出演し続けている。

山下美樹（やました・みき：ソプラノ）



《メッセージ》

今回のオペラを行うにあたりまして、たくさんの方々の暖かい多大なるご協力をいただきました。

面に出るキャスト以上に、裏にまわって動いてくださったスタッフの皆さんの努力にお答えできるよう、感謝を持ってがんばりたいと思います。

《略歴》

フェリス女学院大学大学院音楽研究科修士課程修了
在学中、オーケストラ協演のタベ、卒業記念演奏会に出演。第73回横浜新人演奏会出演。第1回ピアノ・声楽コンクール奨励賞。
2005年：モーツァルト《バスティアンとバスティエンヌ》にバスティアン役で出演。
2006年9月：名古屋にてジョイントリサイタル、12月2日：ニューヨークのカーネギーホールにてジョイントリサイタルに出演。2007年10月：横浜にてリサイタルを行う。
2008年2月：若い翼によるCMDJコンサートに出演。
平松英子、ハノン・ブラシュケの各氏に師事。日本音楽舞踊会議 会員

武田麻衣（たけだ・まい：ソプラノ）

《メッセージ》

この度は、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」に出演させて頂けますことを、心から嬉しく思います。また、支えてくださった先生方をはじめ、共演者の方々、多くの音楽仲間がこの場をお借りして御礼申し上げます。

今回、私は与えられた役を演ずる以外にも、大道具や小道具作りのお手伝いをさせ

て頂きました。そのことによって、一つの舞台を成功させるそれぞれの役割の大切さと苦労を実感しました。当日は、私を支えて下さる方々、また遠方からご来場下さる皆様への感謝を胸に、楽しいひと時を共有したいと思っております。

当公演では“眠りの精”役で出演させていただきます。出演時間は短いですが、とても綺麗なアリアをご鑑賞下さい。



《略歴》

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業後、同大学研究科1年修了。洗足学園音楽大学大学院声楽科修了。

第4回フランス音楽コンクール入選。

2007年4月 日本音楽舞踊会議主催『フレッシュコンサート CMDJ2007』に出演。

声楽を、秋山理恵、藤川泰彰、伊藤淑の各氏に師事。

日本音楽舞踊会議 青年会員

加藤太朗（かとう・たろう：テノール）



《メッセージ》

今回はアレクサンドル・デュマ・フィス原作『椿姫』をヴェルディがオペラ化した作品を抜粋で歌わせていただきます。

イタリアオペラ最大の作曲家ヴェルディの代表作であるばかりでなく、イタリアオペ

ラの中でも特に人気の高い傑作のひとつです。

少しでも皆様にこのオペラの魅力をお届けできればと思っております。

《略歴》

千葉県出身。国立音楽大学声楽学科卒業。卒業時に矢田部賞受賞。

東京藝術大学大学院修士課程オペラ科3年在学中。

草原哲広、伯田好史、橋本久喜、田嶋好一、福井敬の各氏に師事。

昨年10月に藝大120周年記念 第53回藝大オペラ定期公演 現田茂夫氏指揮「ラ・ボエーム」のロドルフォ役にてオペラデビュー。以降、「コジ・ファン・トゥッテ」(W.A.Mozart)フェランド役、「椿姫」(G.Verdi)アルフレード役などのオペラに出演。

今までに、国立音楽大学演奏部会主催 第70回ソロ・室内楽定期演奏会「ソロコンサート秋」、同大学卒業演奏会、第76回読売新人演奏会等に出演し、ベートーヴェン作曲「ミサ曲八長調」「交響曲第九番」、J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」メンデルスゾーン作曲「エリヤ」等、宗教曲のソリストとしても活動している。

第59回全日本学生音楽コンクール 声楽部門 大学・一般の部 東京大会第1位。第37回イタリア声楽コンクール イタリア大使杯受賞。

佐野 友美（さの・ともみ：ソプラノ）



《メッセージ》

今回「椿姫」に出演させていただきます。

「椿姫」はとても好きなオペラです。

演奏会では全幕ではなく有名な場面の抜粋ですが、皆様に楽しんで頂ける舞台になるように頑張ります。

《略歴》

徳島県出身 平成 15 年国立音楽大学声楽学科卒業
平成 18 年同大学院修了
大学院オペラ「Don Giovanni」のツェルリーナ役で出演
田口 興輔氏に師事
2006 年 3 月：日本音楽舞踊会議主催『フレッシュコンサート CMDJ2006』に出演。

佐々木 寿子（ささき・ひさこ：ソプラノ）



《メッセージ》

「ヘンゼルとグレーテル」は、夢が溢れる本当に素敵なオペラです。フンパーディングの最高の作品であるこのオペラに出演することができ、とても嬉しく思います。今回は日本語上演ですが、この作品のもつファンタジックな魅力を表現できればと思っています

《略歴》

山形県出身。山形県立山形北高等学校音楽科、国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。現在、同大学大学院音楽研究科声楽専攻（フランス歌曲）二年。
これまで声楽を、中川順子、吉澤祐江、秋山理恵の各氏に師事。第 1 3 回山形県新人演奏会に出演。また、カンパニア・オペラルテ公演「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル役で出演。

花田 愛（はなだ・あい：ソプラノ）



《メッセージ》

この度は、オペラ『ヘンゼルとグレーテル』出演の機会を頂き、大変嬉しく思います。

オペラの中でも、お菓子の魔女という、普段の生活にはあまり見られない、キャラクターが濃く、独特な役は初めてで、役作りに戸惑う事もありました。

しかし、周りの先生方や出演者に支えられ、今回の公演を迎える事ができ、本当に感謝の気持ちで一杯です。

今回は、ヘンゼルとグレーテルを食べようと企む恐ろしい魔女でありながら、ちょっとワイルドで面白い面も持った魔女が演じられたら...と思います。

見に来て下さるお客様の印象に残るような、楽しんで頂けるような魔女になれるよう、頑張りたいと思います。

《略歴》

国立音楽大学音楽教育学科幼児教育専攻卒業。卒業時に岡本賞受賞。

洗足学園音楽大学大学院声楽専攻修了。

全日本演奏家協会主催第 8 回ル ブリアン・フランス音楽コンクール審査員賞受賞。声楽を近藤恵子、吉見康子、秋山理恵の各氏に師事。

2007 年 4 月 日本音楽舞踊会議主催『フレッシュコンサート CMDJ2007』に出演。日本音楽舞踊会議 青年会員

本来の声種はソプラノであるが、今回は『ヘンゼルとグレーテル』のお菓子の魔女役に挑戦する。

増田 浩子（ますだ・ひろこ：ソプラノ）



《メッセージ》

この度はオペラ『ヘンゼルとグレーテル』に出演させて頂きまして、ありがとうございます。ご来場下さいました皆様、お忙しい中をありがとうございました。

また、このような機会を与えてくださった中島先生、ご指導下さいました先生に感謝申し上げます。

本番まであっという間に時が流れてゆきました。自主練習では限られた時間の中で、みんなで楽しみながら知恵を絞り、時には苦しみ、そして時にはペンキまみれになり... (笑) 仲間で支え合いながら、一つの作品を作り上げていくことで、1人の力ではなし得ない、かけがえのない宝物を得ることができました。本当にありがとうございます。

夢の世界でハラハラドキドキ、そして最後は心温まり、お楽しみ頂けたら幸いです。

《略歴》

1982年生まれ。千葉県出身。吉祥女子中学・高等学校卒業。

高校では普通科音楽コースに在籍。平成16年度、国立音楽大学音楽学部声楽学科を卒業したのち、洗足学園音楽大学大学院音楽研究科にて声楽を専攻し、昨年度にて修了。在学中は大学院トライアルコンサート等に出演する。第6回フランス音楽コンクールA級入選、記念演奏会に出演。声楽を高校在学中に井上由紀、田島好一の各氏に師事。大学在学中から現在に至るまで秋山理恵氏に師事し、おもにフランス歌曲を学ぶ。2008年4月 日本音楽舞踊会議主催『フレッシュコンサートCMDJ2008』に出演。日本音楽舞踊会議 研究員

本来の声種はソプラノであるが、今回は『ヘンゼルとグレーテル』の母親役に挑戦する。

湯川 亜也子 (ゆかわ・あやこ：メゾ・ソプラノ)



《メッセージ》

この度、オペラ『ヘンゼルとグレーテル』の舞台にヘンゼル役として出演出来る事を本当に嬉しく、幸せに思います。

「子供から大人までが楽しめるハッピーエンドなオペラを...」作曲者フンパーディンクの強い思いから生まれたこのオペラには、日々の生活の中にある小さな幸せに気付かせてくれるようなメッセージがたくさん込められています。

貧しい暮らしの中でも強く温かく生きるヘンゼルに、私はたくさんの笑顔と勇気をもらいました。無邪気だけど機転が効き、強がってみるけれど弱虫な顔も覗かせる元気いっぱいのヘンゼルと美しい音楽に寄り添って、本日の舞台に立っていたいと思います。

今日に至るまで温かく見守り、支えてくださった先生方、家族、共演者の皆さん、スタッフの方々に心からお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

《略歴》

国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業。同大学院音楽研究科声楽専攻(歌曲コース)修了。現在、同大学院博士後期課程声楽研究領域2年次在学中。同大学院研究奨学金受賞。同大学卒業演奏会、第30回東京都新人演奏会、大学院新人演奏会、サントリーホールデビューコンサート2007「レインボー21」等に出演。

2007年4月 日本音楽舞踊会議主催『フレッシュコンサートCMDJ2007』に出演。

同年10月 国立音楽大学大学院オペラ公演『フィガロの結婚』にケルビーノ役で出演。

第15回日仏声楽コンクール第1位受賞。秋山理恵氏に師事。日本音楽舞踊会議青年会員

メルヘンの世界とオペラ 中島 洋一

実はこのタイトルを選んで困ったことになったと思いました。私が今思い浮かべることが出来るメルヘン・オペラ作品というと、今回のオペラコンサートの演目である、フンパーディンクの『ヘンゼルとグレーテル』とラヴェルの『子どもと呪文』くらいしかないのです。しかし、メルヘン的世界を描いたオペラというところまで範囲を広げると、アンデルセンの『人魚姫』の物語の影響を受けたドボルザークの『ルサルカ』や、良く知られたモーツァルトの『魔笛』なども、メルヘン・オペラの範疇に含むことが出来るかもしれません。

そこで、まずドイツ語のメールヒェン（Märchen）という言葉の持つ本来の意味について、少し調べてみました。次は『グリム童話集』を訳された金田鬼一氏の説の受け売りですが、それは「童話」と訳すことも可能だが、「おとぎ話」と訳してもおかしくないと書かれております。我が国にも、室町時代～江戸時代に流行った「御伽草子」というものがありますが、対象となる読者は、子どもとはいえません。また、メールヒェンは大きく分類すると、Volksmärchen（民間童話）と Kunstmärchen（創作童話）となるということですが、フランスのペローや、グリムが集めた物語は口承で伝わって来た話を収集したもので、それは民衆の生活と夢を伝える物語であり、我が国の「むかしばなし」同様、鑑賞の対象は必ずしも子ども達だけに限定されたものではなかったと思います。実際に昔話やグリムの童話の中には、必ずしも子ども向とは云い難い話もあります。しかし、この問題を掘り下げて行くことは、私の能力の遠く及ばないところであるだけでなく、今回のテーマから少し脱線してしまいますので、グリム童話の話題が出たところで、主にオペラ作品の『ヘンゼルとグレーテル』と、そのもととなった、グリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』の物語とを比較し、必要に応じて、他の作品にも触れながら、話しを進めて行きたいと思います。

子ども時代の読書の記憶

私は小学校高学年だった頃は、片田舎の子どもとしては珍しいほどの読書少年でした。読んだ本の殆どは童話か、科学の本でしたが、愛読した童話作品は、アンデルセン、小川未明、ワイルド、トルストイ、ラーゲルレーヴなどで、その多くが創作童話でした。もちろん、グリム童話や、イソップ物語なども少しは読みましたが、あまり強く印象に残っていないのです。アンデルセン、ワイルド、小川未明などは特に好きで、アンデルセンの童話を読んで涙が出るほど感動したことは幾度もありましたが、グリムの童話ではそういう経験はありませんでした。

アンデルセンは 19 世紀の詩人・童話作家であり、その晩年、当時まだ若かった北欧の作曲家グリーグ（1843-1907）とも交流がありました。そして、フンパーディンク（1854-1924）もグリーグとほぼ同じく 19 世紀後半に活躍した人です。一方、グリム童話も活字として出版されたのは 1812～1857 年で 19 世紀でしたが、それは、口承で伝えられて来た民話を、グリム兄弟が聞き採って編集したものです。そこには、遠い過去から近い過去までの庶民の生活と夢の記憶が刻み込まれているはずで、それを口承で伝えて来た人々の多くは、読み書きも出来ない無学で貧しい人々だったことが想像されます。

一方、アンデルセンの愛読者だったり、オペラを楽しんだりしていた人々の多くは、そこそこ裕福で、そこそこの教養を備えた市民層だったことが想像されます。

オペラとグリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』

グリム童話の『ヘンゼルとグレーテル』の物語は、子捨ての話です。貧しい木こり（オペラではハウキ作り）の子どもである兄妹は、両親から二度も捨てられます。残酷に思われますが、洋の違いにかかわらず、昔の庶民の生活においては、飢饉などに襲われた時、共倒れになることを避けるために、子どもを捨てたり、殺したり、あるいは「姨捨」の話に残るように、年老いて働けなくなった老人を捨てるのは、それほど珍しいことではなかったようです。今なら児童虐待で刑務所送りというところでしょうが。

オペラでは、子捨てではなく、仕事をしないで遊び回る子ども達に腹を立てた母親が、森へ行ってイチゴを摘んで来るように命じます。しかし、父親から、「森には恐ろしいお菓子の魔女が住んでいる」と聞かされ、母親は恐ろしくなり、父親と一緒に子ども達を探しに森へ行くように書かれています。

その他にも、オペラと原作が異なっている個所は沢山あります。オペラの魔女は、お菓子の魔女であり、子ども達をお菓子にして食べてしまいます。原作ではお菓子の家は子ども達を誘うための罠であり、魔女は魔女の家に住んでいて、子ども達をつかまえて煮たり焼いたりして食べる人食い女です。おそらく日本の民話に登場する山姥（やまんば）や鬼婆と同系統の存在でしょう。魔女や山姥は、もとは人間だったのですが、人を食らっているうちに妖怪に変身してしまった存在です。またオペラでは、魔女は死んだ後、黒こげの焼死体になるのではなく、ジンジャーブレッド（お菓子の一種）になって出てきます。そのような粉飾は、19世紀の市民の子ども達には残酷すぎるところを緩和し、よりおとぎ話的な装いを施すための脚色でしょう。

また、オペラでは夜には眠りの精が砂袋を持って現れ、兄妹に砂粒を投げかけて眠らせます。朝には露の精が現れ、兄妹の目に露のしずくを注ぎ、目を覚まさせます。そして、二人が眠っている時には14人の天使が現れ、子ども達を守るように取り囲みます（天使のパントマイム）。原作にはないこれらのシーンを加えたのは、作品を寄り美しく幻想的なものにするためのロマン派の作曲家らしい工夫でしょう。

逆に原作にあってオペラにないシーンもあります。兄妹が数日間森をさまよい飢えて死にそうになった時、白い小鳥が現れ、兄妹をお菓子の家まで導きます。その小鳥は魔女の手先ではないかって？いえ、そうではないでしょう。お菓子の家にありつけなければ飢死にするところだったので。また魔女が死に、魔女の森から脱出して我が家をめざす時、大きな川に遮られますが、白い鴨の背中に乗せてもらい無事に渡ります。民話にはこういうシーンが多く見られますが、そこには、キリスト教以前の民族神話の世界とのつながりを見ることが出来るのではないかと思います。森や川は魔女や妖怪が住む恐ろしい所ではありますが、その一方、生きて行くための豊かな恵みを与えてくれるかけがえのない神聖な場所でもあったのではないのでしょうか。そして、動物や植物たちも、その自然の中で共に生きる仲間達であったのではないのでしょうか。

それと、改めて原作を読んで気がついたことがありました。私が子どもの頃読んだ『ヘンゼルとグレーテル』では、両親は子ども達を捨てたことを後悔し、子ども達が魔女の森から戻ると泣いて喜び、自分達の行いについてあやまり、その後は仲良く暮らすというストーリーになっていたような気がします。ところが原作では、母親はママ母で、積極的に子ども達を捨てようとし、お人好しだが気が弱い父親は本意ながらしぶしぶ同意するというように書かれています。そして、兄妹が家に帰るとすでに母親は死んでいて、その後は父親と三人

で仲良く暮らすようになっています。

一般に民話では、主人公は善人であり、話の聞き手は主人公を自分に置き換え感情移入して、物語の展開をはらはらしながらみまもります。その一方、意地悪ばあさんとか、嫌な金持ちなど、悪玉が登場し、悪玉が失敗したりひどい目にあったりする話しを「ざまーみろ」と拍手喝采して聞くのです。例えば『舌切り雀』のおばあさんなどは、雀の舌を切るという意地悪な行いをしているながら、厚かましくも雀のお宿に寄り、欲張って大きなつづらを持ち帰ります。帰り道でつづらを開けてみると、そこからは大判小判ではなく、沢山のお化けが出てきておばあさんは腰を抜かしますが、やさしく無欲な善人の主人公のおじいさんに対して、おばあさんは「ざまーみろ」の対象となる欲張りでするい人間、つまり悪玉として書かれています。

では、魔女は悪玉でしょうか。いや魔女は妖怪であり恐ろしい存在でしょうが、超人間的な存在であり、悪玉人間の範疇には入らないでしょう。私は原作においては、母親がそのような存在として書かれているように思います。子どもの頃読んだ『ヘンゼルとグレーテル』が、いまひとつ印象が薄かったのは、それが子ども用に脚色されていたことも要因の一つだったかもしれません。編者は、子どもを平気で捨てる母親の話は、あまり子ども達に読んで欲しくないものと考えたのでしょう。

19世紀の芸術家達が抱いた夢と、民話にみられる昔の貧しい庶民の夢

では、今度は物語の結末をみてみましょう。オペラでは、魔女が死んだ後、お菓子にされていた子ども達の魔法を解き、みんなが助かったことを喜び、自分達をお救い下さった神様に感謝して幕を閉じます。グリム童話の方は、魔女が死んだ後、魔女の家の中を探すと、あちこちに真珠や宝石の入ったなごもちがあり、兄妹はその宝石類を沢山持ち帰り、その後、お父さんと豊かで幸せな生活を送るというオチになっています。人食い女である魔女が、沢山の宝石類を蓄えているなど荒唐無稽でおかしな話しですが、「沢山の宝物を手に入れて、家族仲良く幸せに暮らす」というハッピーエンドは、洋の東西の違いにかかわらず、民話に多く見られる結末です。つまり「大判小判がザックザックザックザク」は庶民の切実な夢だったのです。「貧しくとも愛に満ちた心豊かな生活を送る」などという考え方は、生きて行くために、場合によっては親や子を捨てたりしなければならぬほど貧しかった庶民にとって、嘘っぱちに感じられたことでしょう。物の存在は、家族が仲良く生活して行くための必要不可欠な条件だったのです。

こんどは、アンデルセンの作品や他の 19 世紀のオペラ作品の例をみてみましょう。まず、アンデルセンの『人魚姫』です。嵐の日に地上の王子様を助け、そして、その王子様に恋をしてしまった人魚姫は、魔法使いに頼み、人間の娘にしてもらいます。ただそれは、もう人魚には戻れないこと、もし王子様が他の女性と結婚した時には、人魚姫の心臓は破裂し、水の上の泡になってしまう、という約束を受け入れてのことだったのです。王子様は人間の娘になった人魚姫を愛（いつく）しみましたが、やがて隣の国の王女様と結婚することになります。姉さんが魔法使いからもらった短刀を持って来て言います。「この短刀で王子の心臓を刺し、その血を足に浴びれば、お前はもとの人魚に戻れるのだよ」と。人魚姫は姉さんの言いつけ通りにしようとしませんが、短刀で愛する王子様の心臓を突き刺すことはとても出来ず、短刀を海に投げ捨ててしまいます。人魚姫は自分の体が泡になって行くのを感じますが、やがて泡を抜け、空気の精になります。そして、王女様にキスをし、王子様に微笑みかけ、天

に昇って行きます。

では、『人魚姫』の物語を素材の一部として取り入れている、トボーザークのオペラ『ルサルカ』の結末をみてみましょう。短刀を受け取ったルサルカが王子を殺すことが出来ず、短刀を捨ててしまうところまでは、『人魚姫』の物語と似ています。それから王子は一人で夜の森に現れ、ルサルカに赦しを乞います。ルサルカは自分に口づけすれば王子の命がないことを告げます。しかし、王子はルサルカを抱いて自ら口づけをします。ルサルカは王子の亡骸をやさしく抱きながら共に湖の底に沈んで行きます。

自分が相手を受け入れれば死ぬことを知りながら、敢えてそうして結末を迎えるオペラには、ワーグナーの『さまよえるオランダ人』があります。ゼンタの父は欲に目がくらみ、航海で出会ったオランダ人に自分の娘をくれてやっても良いとの約束を交わしてしまいます。ゼンタは父に連れられ自分の家を訪れたオランダ人が、自分がいつも見つめていた「不幸なさまよえるオランダ人」の肖像画の男だということにすぐ気づき、一層深く彼を愛するようになります。オランダ人との約束を果たす日、オランダ人の正体が幽霊船の船長で呪われた亡者であることを知った父や昔の恋人は、ゼンタを止めようとします。しかし、ゼンタは自分の婚約者が幽霊であることを知りながら止めようとする手をふり切って、自ら海に身を投じます。幽霊船は沈没し、オランダ人の呪いは解け、その魂は救われ、ゼンタと共に天へ昇って行きます。

民話の庶民達の第一の夢は「大判小判がザックザック」つまり豊かな物でした。それに対して、いま上げた 19 世紀作品のテーマは「まことの愛」です。19 世紀人はなんて甘っちょろく非現実的な夢を抱くのだろう、と思う人がいるかもしれませんが、魔女の家から沢山宝物を持ち帰るとい話しだって随分非現実的です。夢はそれが実現可能かどうかで見るべきものではなく、その人の「強い願望の現れ」として見る事が出来るのではないのでしょうか。人はなかなか得られないものに対して、より強い願望を抱くものです。19 世紀は産業革命が起こり、物が豊かになって行く時代ではありません。その一方で、人々は傷つき孤独になり、なかなか人間が信じられなくなって行くような時代だったかもしれません。人は傷つき、孤独になればなるほど「まことの愛、まことの心を」より強く求めるのではないのでしょうか。そして、感性の豊かさを失っていない市民達（すべてではない）は、芸術家達が抱いた夢や悩みを共有し、彼らの書いたものを読み、彼らが創造した作品を鑑賞したのではないのでしょうか？

ヴィオレッタの夢

せっかくですから、今回のオペラ公演のもう一つの対象作品『椿姫』にも少し触れてみましょう。「道に迷える女」ヴィオレッタが抱いていた夢、強い願望は、教会でアルフレードと結婚式を挙げ、神の前で永遠の愛を誓い合い、晴れてジェルモン夫人（アルフレード・ヘルモンの妻）になることでした。普通の女性にとっては、それは実現不可能なほど遠い夢ではないかもしれませんが、しかし、彼女にとっては実現困難な遠い夢でありながら、生き続ける唯一の理由でした。帰って来たアルフレードに抱かれ歓喜に震えるヴィオレッタは、自分の病気の事も忘れ、着替えて教会へ行こうとします。そして倒れながらも教会で結婚式を挙げることを夢想します。死に行く身でありながら、そのはかない夢にすべてをたくそうとする、ヴィオレッタの心情のひたむきさ、切なさが、聴衆の心を強くうつのです。

（この記事は、印刷版『音楽の世界』2008年9月号に掲載されたものです）

過去のオペラコンサートの記録

第1回 2005年12月2日 『愛・憎しみ・血の惨劇!』

《プログラム》

- 1) **PAGLIACCI** Leoncavallo
『道化師』 レオンカヴァルロ 伴奏：亀井奈緒美
道化師トニオの口上 “ごめん蒙りまして” 佐藤 光政
- 2) **DON GIOVANNI** Mozart
ドン・ジョヴァンニ モーツァルト 伴奏：亀井 奈緒美 & 藤川 志保 (1曲)
No.7 二重唱 (ドン・ジョヴァンニ & ツェルリーナ) 松浦 豊彦 & 渡辺 裕子
“手を取りあって誓いを交わそう”
No.12 アリア (ドン・ジョヴァンニ) “シャンペンの歌” 松浦 豊彦
No.13 アリア (ツェルリーナ) “ぶって、ぶって! マゼット” 渡辺 裕子
No.17 アリア (ドン・ジョヴァンニ) “セレナード” 松浦 豊彦
No.18 アリア (“ ”) “この横町からあちらへ行け” 松浦 豊彦
No.19 アリア (ツェルリーナ) “もしもあんたがおりこうさんに..” 渡辺 裕子
No.25 アリア (ドンナ・アンナ) “いまも変わらずに愛する”
矢数典子 伴奏 藤川志保
- 3) **RIGOLETTO** Verdi
リゴレット ヴェルディ 伴奏：亀井奈緒美
No.9 アリア “麗しき御名”(ジルダ) 島 信子
No.12 “あくまめ鬼め”(リゴレット) 水野賢司
No.14 二重唱 “いつも教会へ..” 島 信子 & 水野 賢司
- 4) **OTELLO** Verdi
オテロ ヴェルディ 伴奏：北川葉子
“柳の歌”、“アヴェマリア”(デズデモーナ) 金子 直美
- 5) **CARMEN** Bizet
カルメン ビゼー 伴奏：北川葉子 & 藤川志保 (1曲)
No.5 “ハバネラ”(カルメン:) 田辺 いづみ
No.14 “闘牛士の歌”(エスカミリオ) 佐藤 光政
No.17 “花の歌”(ドン・ホセ) 土屋 清美
No.22 “ミカエラのアリア” 矢数典子 伴奏：藤川志保
No.27 最後の二重唱 土屋清美 & 田辺いづみ
司会：佐藤 光政

日時：2005年12月2日(金)午後6時半開演/午後6時開場

会場：すみだトリフォニーホール 小ホール

第2回 2007年9月14日 喜歌劇コンサート; 『愛のたくらみ』

《プログラム》

- 1) オッフェンバック 『天国と地獄』より “ギャロップ”
電子オーケストラ + 合唱
J. Offenbach “ORPHÉE AUX ENFERS” ~ “Galop”
- 2) ロッシーニ 『セヴィリヤの理髪師』 (抜粋) 歌唱部伊語
G. ROSSINI “IL BARBIERE DI SIVIGLIA”

- No.4 フィガロ（カヴァティーナ）“おいらは町のなんでも屋” 佐藤光政
 No.7 ロジーナ（カヴァティーナ）“今の歌声” 村上貴子
 No.9 二重唱（フィガロ、ロジーナ） 佐藤光政、村上貴子
 No.16 ベルタ（アリア） 太田智子
 おまけ曲（本番のお楽しみ） 太田智子

-----（小休憩）-----

3) J.シュトラウス 『こうもり』（抜粋） 歌唱部独語
 J. STRAUSS “DIE FLEDERMAUS”

- No.1a 二重唱（ロザリンデ、アデーレ） 金子直美、島信子
 No.3 二重唱（ファルケ、アイゼンシュタイン）石川雄蔵、神林紘一
 No.4 三重唱（アイゼンシュタイン、ロザリンデ、アデーレ）
 神林紘一、金子直美、島信子、
 No.9 二重唱（ロザリンデ、アイゼンシュタイン）金子直美、神林紘一
 No.10 アリア（チャルダッシュ）ロザリンデ 金子直美
 No.11 アリア 合唱 石川雄蔵他 合唱
 No.14 クプレ（アデーレ） 島信子
 No.16 最後の合唱

-----（休憩）-----

4) レハール 『メリー・ウイドウ』（抜粋） 日本語公演
 F. LEHÁR “DIE LUSTIGE WITWE”

- No.4 アリア“祖国のためなら”（ダニロ） 佐藤光政
 No.5 二重唱（ヴァランシエンヌ、カミュ） 長谷川実美、神林紘一
 No.7 森の乙女の歌（ハンナ） 島田祐子
 No.8 二重唱「間抜けな騎兵の歌」（ハンナ、ダニロ） 島田祐子、佐藤光政
 No.11 二重唱とロマンス（ヴァランシエンヌ、カミュ） 長谷川実美、神林紘一
 第三幕はすべて演奏する
 No.14 シャンソン（ヴァランシエンヌ（長谷川実美）+合唱（斉唱）
 No.14 a 回想（合唱）
 No.15 二重唱（ハンナ、ダニロ） 島田祐子、佐藤光政
 No.16 大詰めの合唱（ハンナ ツェータ、ダニロ 合唱）
 島田祐子 石川雄蔵 佐藤光政 合唱）

司会：佐藤 光政 / ピアノ伴奏：亀井奈緒美（全曲） / 企画・構成：中島 洋一

日時：2007年9月14日（金）午後6時半開演 / 午後6時開場

開場：すみだトリフォニーホール 小ホール

+ + *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +* *+ +*

9月～12月の日本音楽舞踊会議本会と会員の催物案内

印は会主催コンサート

【9月】

- 8日（月） 草野明子ピアノリサイタル 東京文化会館小ホール 19:00～ 入場料：4000円
 10日（水） 並木桂子 歌とピアノによるロマンティックコンサート【上野文化会館4F 18:00】
 14日（日） 並木桂子 ベヒシュタインで聞くシューベルト&ドビュッシー
 【ユーロピアノ・ショールーム】

21日(日) CMDJ2008年オペラコンサート『愛と夢の世界へのお誘い』
【すみだトリフォニー小ホール 16:00】
入場料: 3000円 / 中学生以下: 1500円 / 本会会員 & 賛助会員: 無料

21日(日) 深沢亮子 翔の会 15周年記念コンサート【浜離宮朝日ホール 13:30】

24日(水) ピアノ部会第21回部会公演『20世紀初頭: パリで活躍した作曲家たち』
【すみだトリフォニー小ホール】 19:00 ~
入場料: 全自由席: 3000円 / 会員 & 賛助会員: 無料

《プログラム》

シャブリエ: ピアノのための5つの小品(遺作) 栗栖麻衣子(Pf)
グラズノフ: ピアノ ソナタ 第1番 作品74より 戸引小夜子(Pf)
アルベニス: イベリア 第4集より 北川暁子(Pf)
ヴィラ=ロボス: 飾りのない詩 広瀬美紀子(Pf)
ピアソラ: ブエレスアイレスの秋(北條直彦委嘱編曲)
イベール: 物語より(M.モイーズ編曲) 石川絵津子(Fl) / 並木桂子(Pf)
ドビュッシー: 前奏曲集 第2巻より~水の精
" 第1巻より~パルクの踊り、ミンストレル
深沢亮子(Pf)

27日(土) ジャパン・エレクトロニック・オーケストラ演奏会 フォーレ: レクイエム他
指揮: 野口剛夫【ヤマハ・エレクトーンシティ渋谷 16:00 2,000円】

28日(日) 深沢亮子 東北少年少女コンクール本選【余目市 響ホール】

29日(月) 高橋通(作曲): 高橋通作品展・歌曲の夕べ【ゆめりあホール(大泉学園駅前)
PM7:00開演、入場料3,000(全自由席)】問い合わせ: 高橋通042-971-0503

【10月】

6日(月) 20世紀以降の音楽・様々な音の潮流 【すみだトリフォニー小ホール】
入場料: 前売: 3000円 / 当日: 3500円 / 本会会員 & 賛助会員 無料

《プログラム》

高田三郎 ピアノのための前奏曲より ピアノ独奏 栗栖麻衣子
木幡由美子 <モノローグ>独奏チェロのための(改定初演) チェロ独奏 安田謙一郎
田中範康 クラリネットとピアノのための詩曲
クラリネット 大和田智彦 / ピアノ 坂野伊都子
中島洋一 ピアノソロのための“隠れた森” ピアノ独奏 大矢絢千
桑原洋明 アルトサクソフォンとピアノのための組曲風ソナタ
アルトサクソフォン 小串俊寿 / ピアノ すすきみゆき
溝原敬士 “ドリュアス” ヴァイオリン 恵藤久美子 / ピアノ 中野洋子
浅香満 クラリネットとピアノのためのノクターン
クラリネットとピアノのためのソナタ
クラリネット 久保田晴子 / ピアノ 植田さや香
北條直彦 『響相』記憶の風景より ~ピアノ独奏のための~ ピアノ 薄田勝行
原博 ヴァイオリンソナタ ヴァイオリン 北川靖子 ピアノ 鶴見彩

25日(土) 並木桂子 ~歌とピアノで楽しいファミリーコンサート~
【北とぴあ ぷらざ劇場 14:00予定】

26日(日) 深沢亮子コンサート【仙台ピアノ工房15:00】問い合わせ: 伊藤 022-344-3277

- 10日(金) 深沢亮子リサイタル Vol.3【カワイ表参道コンサートサロン・パウゼ 19:00】
 問い合わせ:カワイ音楽振興会 03-5485-8511
- 12日(日) 「コンポシエスタ」橘川琢作曲ほか【文京シビックセンター】 14:00 ~
 入場料:前売:2500円/当日:3000円
- 12日(日) 並木桂子 ベビシュタインで聞くシューベルト&ドビュッシー
 【ユーロピアノ・ショールーム 15:00】
- 19日(日) 北川暁子 日本ピアノ連盟・山陰支部 公開公演 【松山市内】

20日(月) 作曲部会コンサート『7+1の音像』
【すみだトリフォニー小ホール】18:30 ~

《プログラム》

- 穴原雅己 水曜日の唄(初演)/野ばら(初演)/飛行雲(初演)
 Sop.中村貴代/Pf.浜尾夕美
- 大和 實 幸せ(初演)/遠き日々/希望(初演)/ブルーテラス(初演)
 Sop.浦 富美/Pf.坂田晴美
- 橘川 琢 詩歌曲「花の記憶」(初演)
 Sop.島信子/朗読 木部与巴仁/Pf.並木桂子
- 桑原洋明 ピアノ奏鳴曲「伊勢之海」(初演) Pf.鈴木菜穂子
- 小倉直人 「千里眼」 Vn.北川靖子/Pf.新井知子
- 黒髪芳光 立原道造の詩による「三つの歌」他
 Bar.佐藤光政 Pf.戸引小夜子
- 高橋雅光 尺八と薩摩琵琶による「弧響」
 尺八:三橋貴風/薩摩琵琶:半田淳子
- 高橋 通 Purple Prayers(初演)
 Fl.河合沙樹/箏:高橋澄子/打楽器:佐藤直美 ほか

-
- 25日(土) 並木桂子 ~歌とピアノで楽しいファミリーコンサート~
 【北とぴあ ぷらざ劇場 14:00予定】
- 25日(土) 楽しい日本の歌コンサート【町屋文化センター 14:00】
- 26日(日) 深沢亮子コンサート【仙台ピアノ工房15:00】問い合わせ:伊藤 022-344-3277

【11月】

- 4日(火) 昭和音大エレクトロニック・オーケストラ演奏会 指揮:野口剛夫
 【ヤマハ・エレクトーンシティ渋谷 19:00】
- 9日(日) 並木桂子プレイエルで聞くフォーレ、歌曲とピアノ【ユーロピアノ・ショールーム】
- 14日(金) 深沢亮子 千葉県立東金高等学校創立100周年記念【東金文化会館14:00~16:00】
- 14日(金) 北川暁子・靖子 カワイサロンコンサート【カワイ表参道 19:00】
- 17日(月) 深沢亮子 翔の会公開レッスン
 【コトブキD.Iセンター10:00】問合せ:大山 044-966-5224
- 22日(土) 深沢亮子リサイタル【市川行徳文化ホールI&I 15:00】
- 23日(日) フランス歌曲・研究コンサート 【中目黒GTプラザホール 19:00~】
 出演:秋山理恵他
- 28日(金) 並木桂子 作曲家シリーズ~シューベルト ピアノ、歌曲、室内楽
 【代々木ムジカーサ19:00】

【12月】

- 6日(土) 橘川琢作曲ほか 詩と音楽を歌い、奏でる「トロッタの会」Vol.7
 【ラ・リール(大塚)】

- 18日(木) ピアノとヴァイオリンとチェロの夕べ(仮称) 深沢亮子(Pf) 恵藤久美子(Vn)
安田謙一郎(Vc)【音楽の友ホール 19:00 会員割引料金2,500円】
- 23日(火・祝) COMPOSITIONS 2008 ~ エレクトーンのための作品コンサート?
【ヤマハエレクトーンシティ渋谷 16:00】
- 24日(水) 北川暁子リサイタル【東京文化会館小ホール 19:00】

+ + +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +* +*

編集後記

今回は、昨年9月発行の第12号(フレッシュコンサート特集号)につづく5ヶ月半振りの発行となりました。

第13号は、オペラコンサート特集号となりましたが、オペラを上演するまでには、演奏だけではなく、台本の作成、舞台美術の構想と制作、演出など、様々な仕事の積み重ねが必要となります。また、出演者側も音符の暗譜、台詞暗誦など基礎的練習をした後、演技をつけて何度も練習を積み重ねる必要があります。それらは、多くの人々が協力し合って、はじめて可能となることです。

その成果を評価するためには、どうしても会場に足を運んでもらう必要があります。東京近辺にお住まいの読者の皆様方には、ご都合がつかましたら、是非公演当日、会場に足を運んでいただきたいと存じます。。

また、次回の発行は、2009年3月下旬を予定しております。読者の方々の投稿をお受けいたしますので、どうぞ、yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp宛に、お送りください。なお、投稿は原則としてメール投稿(wordなどのファイルでの添付は可)のみといたします。理由は手書きや印刷物でお送りいただいた場合、再打ち込みの労力の手配が不可能だからです。もちろん、FD、CD-ROMなどのメディアに保存してお送りいただいた場合は、支障がない限り、お受けしたいと存じます。

すでに、オペラコンサート開催まで5日と迫りましたが、出来るだけ多くの方々のご来場をお待ちしております。

編集責任者：中島 洋一

メールマガジン版『音楽の世界』第13号

2008年9月16日 発行

発行：日本音楽舞踊会議 / 月刊『音楽の世界』

The COMMITTEE of MUSIC and DANCE JAPAN

〒169-0075 新宿区高田馬場4-1-6 寿美ビル305号 / TEL&FAX 03-3369-7496

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~onbukai/> E-mail: onbukai@mua.biglobe.ne.jp

編集責任者：中島 洋一

〒190-0031 東京都立川市砂川町 5-36-3

電話&FAX 042-535-3294 携帯電話 090-7904-1726

E-mail: yoichi_n@wa2.so-net.ne.jp